

横浜国大工学部第四寮 寮歌

作詞：国広 理朗（24年 造船）

作曲：石井 春男（22年 機械）

編集：柳田 圭一（33年 造船）

一、流るる雲に行く水に 紅深き木群（こむら）にも

ああ暮れ易き若き日の

宴（うたげ）の夢をしのばずや

遊子（ゆうし）わびしき影長し

二、鐘楼（しょうろう）深く緑して 栄枯の夢やいましばし

源家（げんけ）ゆかりの鐘の音も

朝夕（あしたゆうぐ）の訓（さとし）にて

銀燭（ぎんしよく）ゆらぐ我が住家（すみか）

三、夕べ沈黙（しじま）に暮れゆけば 鳴くや千鳥の影寒く

荒磯（ありそ）に砕（くづ）る波に聞け

永遠（とわ）の真理とその声を

ゆきて帰らぬささやきを

四、紫けむる曙の 露もしとどの下草（したくさ）を

踏みてしだきてさまよえは

心の雄琴（おごこと）澄みてなる

夢よしばしは まどかなれ

夢よしばしは まどかなれ